

## 野中古墳の発掘調査と出土品の保存修理

大阪大学埋蔵文化財調査室助教  
中久保辰夫

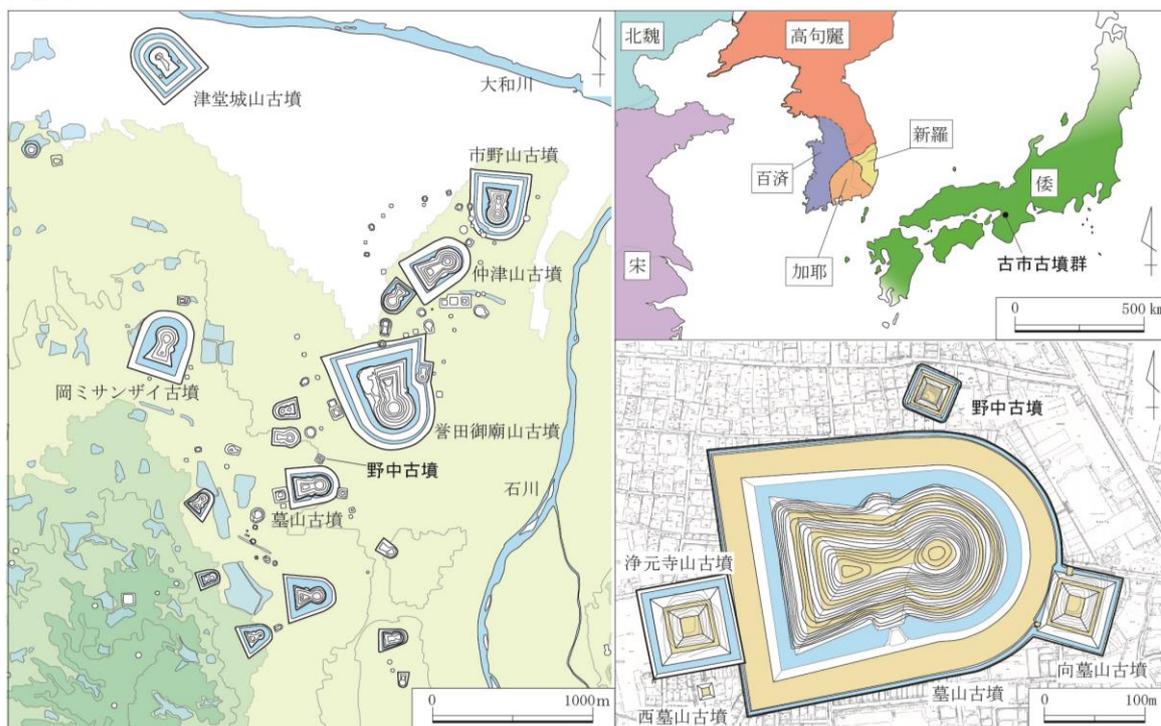
### (1) 野中古墳とは 一古市・百舌鳥古墳群と野中古墳一

野中古墳が築かれた5世紀には、古市・百舌鳥古墳群という、古墳時代を通して最大規模の巨大古墳群が、現在の藤井寺市・羽曳野市・堺市にわたって形成されていました。野中古墳は、古市古墳群のほぼ中央に位置し、墳長1辺37mをはかる中規模の方墳(四角形の古墳)です。

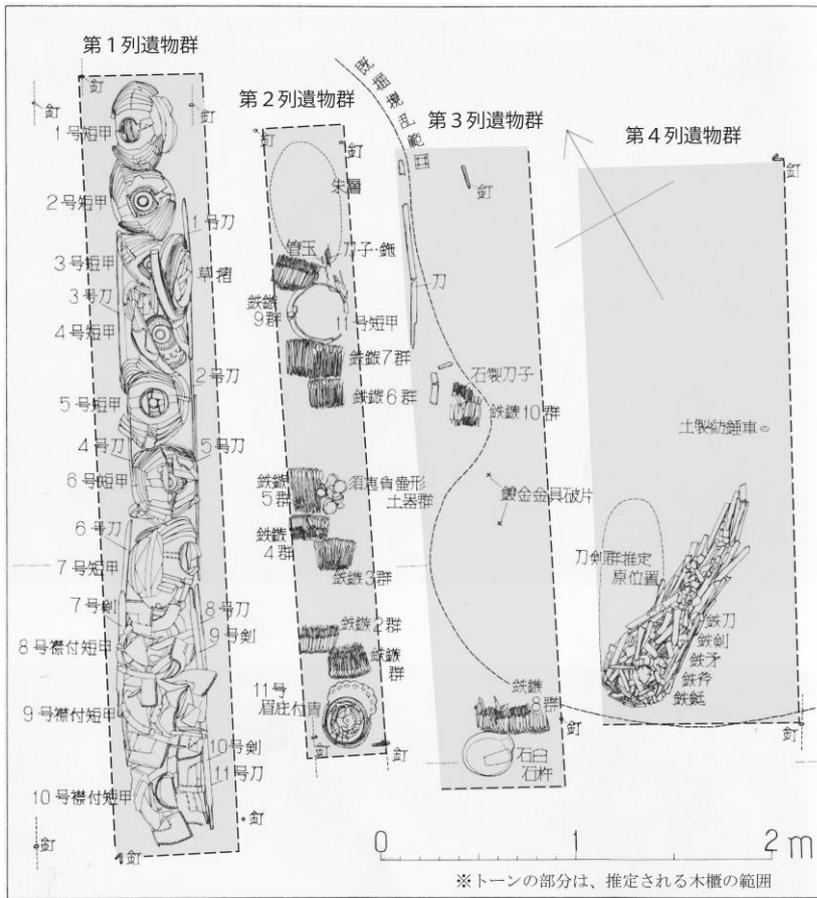
### (2) 1964年次調査 一北野耕平先生の発掘調査一

野中古墳は、発掘調査がなされるまでは「うらやぶ」と呼ばれ、古墳かどうかといったことさえ、わかっていませんでした。しかし、1964年に大阪大学文学部国史研究室で助手をつとめていた北野耕平が実施した発掘調査によって、野中古墳は5世紀の政治社会や対外交流を知るうえで、貴重な手がかりを有する古墳であることが判明しました。

野中古墳の発掘調査において、特筆すべき点は、出土遺物の質と量のみならず、調査精度の高さにあります。カラー8mmフィルムを用いた調査風景の撮影など、当時最新の機材を用いた記録に加え、遺物出土位置の精密な記録は、その後の発掘調査に多大な影響を与えました。



古市古墳群と野中古墳の位置 (博物館叢書 10『野中古墳と「倭の五王」の時代』より)



左図は、野中古墳の  
数々の副葬品が出土  
した位置を記録した  
ものです。緊結具であ  
る釘の出土を手がかりに腐朽した木櫃復  
元すると、元来は木櫃  
が列状に並べられ、そ  
れぞれに副葬品が納  
められていたことが  
わかります。西より第  
1列遺物群、第2列遺  
物群と順に呼び分け  
られ、4列の出土状況  
が図化されています。  
(博物館叢書 10『野中古  
墳と「倭の五王」の時代』  
より)



野中古墳の発掘調査風景

### (3) 鉄製品の保存修復作業

野中古墳は、古墳の規模は小さくても出土品がきわめて多彩かつ多量である点が大きな特徴です。しかし、数多くの鉄製品は、十分な保存処理が施されておらず、文化財としての活用が難しい状態にありました。

大阪大学考古学研究室では、大学内経費に加え、文化庁補助金、朝日新聞文化財団、住友財団による助成金を受け、保存修理を進めてきました。



### (4) 第17回企画展 野中古墳と「倭の五王」の時代

文化庁の補助金(文化遺産地域活性化推進事業)などにより、新たに保存修復作業を行うことができた野中古墳の甲冑や鉄製武器の数々は、鉄製農工具、鉄素材、石製品や土器・埴輪とあわせて、一堂に会して初披露できることになりました。

企画展示「野中古墳と「倭の五王」時代」の見どころは、なんとといっても傑出した出土量を誇る11領もの甲冑です。

身を守る武具である甲冑の使用は、日本列島では弥生時代中期、紀元前の時期にまでさかのぼります。しかし、鉄製甲冑は、3世紀中葉からはじまる古墳時代に出現し、4世紀末葉から5世紀にかけて、すなわち古墳時代中期において古墳に埋納される事例が増加します。野中古墳は、数々の甲冑が当時のエリート層に愛好されて古墳に埋葬された時期、まさに「甲冑の世紀」ともいえる時代を代表する古墳の1つです。当時の日本列島では、自国内で製鉄ができず、鉄資源をもっぱら朝鮮半島南部に頼っており、鉄器加工の技術的水準も限られていましたが、当時最新技術の粋が鉄製甲冑に集約されていることが判明しています。



野中古墳出土甲冑(博物館叢書10『野中古墳と「倭の五王」の時代』より)



野中古墳出土鉄製農工具(左)陶質土器(右、朝鮮半島製硬質土器)  
(博物館叢書 10『野中古墳と「倭の五王」の時代』より)

武器・武具のほかにも貴重な資料が出土しました。U字形鋤鍬先など、朝鮮半島から伝わったばかりの最新式の農具、約36kgも出土した鉄鋌(鉄の素材となるのべ板)、古墳墳丘上で用いられた石製品や玉製品、朝鮮半島南部との交流を示す土器、さまざまな器物をかたどった埴輪の数々は、すべて5世紀の社会や技術、文化を知る上での大きな手がかりとなります。

まだまだ謎が多い日本古代史。当時の政治や社会、人々の生活を知る手がかりは地中深く埋もれた遺跡に残っています。本展示では野中古墳から出土した遺物を通じて、謎解きの手助けとなればと願っています。



野中古墳出土埴輪

(博物館叢書 10『野中古墳と「倭の五王」の時代』より)

野中古墳の発掘調査映像や概説については、下記ホームページよりご覧いただけます。

URL:<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kouko/nonaka/>